

教育目標	
未来を心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育やエピソード研修により、保育の充実・改善、教員の指導力向上を図り、めざす子ども像の実現を目指すことができた。 ・保育についての情報交換の時間や企画を確保し、自己教育力の向上と保育の質を高める。 ・保幼小接続・連携の取組を進めているが、取組の見直しを図ることや、各施設教職員がお互いの教育の理解を深める機会を設定したい。 ・子育て支援の取組を充実することで、入園に繋がったので、本園の取組や公立幼稚園の教育についての発信を工夫していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園アンケートにおいて、子育ての先輩として、保護者に子育ての経験やアドバイスをすることで、子育て支援に繋がっている。 ・教員の増加の要望や支援ボランティアなどにより、教職員の働き方改革に繋がるような支援をしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年9月17日～9月27日	学校運営協議会理事
最終評価	令和2年2月10日～2月21日	学校運営協議会理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
<p>○今年度の研究や特に重視した保育の改善・充実に向けた具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育・エピソード研修を核とした園内研修の推進 ・研究主題サブテーマ「言葉による伝え合い」を育む取組の具体的方策 ・「安心・安定」「自己発揮」「協同性」をキーワードとした保育の推進 <p>○計画的な保育、個への支援の具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体的な活動を確保した計画的な環境構成や援助の在り方 ・行事の見直し、保育と行事との連動 ・非常勤講師、総合育成支援員、学生ボランティアによる支援

<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊ぶ姿の変容 ・ 計画的な保育の週案への明記と振り返り ・ 行事や取組の振り返りによる成果と課題の明確化 ・ 「個別の指導計画」の作成による確実な引継，個に応じた保育 ・ アンケート項目「子どもは，夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」 	
---	--

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳児は幼稚園の生活に徐々に慣れ，安心して自分の好きな遊びを楽しむ姿が見られる。 ・ 子ども同士や教師と楽しく遊ぶ子どもの姿が見られる。 ・ 行事や取組の振り返りを記録し，次年度への改善に活かすようにしている。 ・ 「個別の指導計画」や研修により，子どもの実態を教職員で共有している。 ・ アンケート項目「子どもは，夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」 あてはまる84% 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1週間の保育を振り返り，次週の週案に活かすようにしている。 ・ 行事や取組の実施後に，個別に振り返ることはあるが，職員全体で振り返る時間を持つことがなかなかできていない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究保育やエピソード研修を通して，保育の改善・充実や子ども理解を図る。 ・ 行事や取組の実施後に，振り返りの時間の設定し，次への活動に活かす。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究保育・エピソード研修を核とした園内研修の推進 ・ 行事や取組の振り返りによる成果と課題の明確化 ・ アンケート項目「子どもは，夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹田幼稚園の教育活動には，大変満足している。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究保育・エピソード研修を核とした園内研修の推進 ・ 行事や取組の振り返りによる成果と課題の明確化 ・ アンケート項目「子どもは，夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」 あてはまる83% 	
自己評価	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究保育やエピソード研修から『夢中になって遊び込む子ども』育成に向け，言葉に視点をあてて教師の役割や環境構成について研究を進めることができた。子どもの姿の理解や保育力の

価	<p>向上に向けての話し合いが難しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの大事にする姿や、豊かな表現力、伝える力などについて考える機会になった。 ・行事ごとに振り返りを行い成果と課題を共有し、保育や次年度の行事に生かせるようにした。 ・次年度は、個々の発達に応じて、一人一人が安心・安定しを基盤にした保育の在り方について、研究を深めていきたい。また、保育や子どもの姿を共有し、保育の進め方や環境構成、教師の援助について研究を進めていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢中になって遊び込む子どもの姿」の実現に向け、保育の指導力を高め、教材研究の時間確保を図る。 ・園内の研究保育・エピソード研修を充実し、園外の研究から積極的に学ぶ。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力をつけるため、基本的生活習慣、健康への意識など留意されて指導されていることがよく分かります。先日、女性会で、茶道教室をさせていただきました。園児の皆さん、女性会の講師の先生言うことをよく聞いて、注意深く作法を見学されていたように思います。園児の皆さんには、いろいろな体験をさせてあげたいと思います。 ・「豊かな心」の項目について、園でもすでに指導していただいているとは思いますが、園任せではなく、各ご家庭でも、どのように子どもたちに接して、注意すべきか、例えば、家庭教育講座などで、そういったテーマで話をしていただくなど、園と家の両方から、子どもたちへアプローチしていければ良いのではないかと思います。

（２）幼小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達や学びの連続性に重点を置き、子どもの主体的な遊びを通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を目指し、「学びに向かう力」の育成を意識した保育の推進 ・保幼小連携の定期的な連絡会、連携した取組の充実 ・就学前施設と小学校教育との円滑な接続を意識した、子どもの交流や教職員の授業・保育研究や合同研修 ・接続期カリキュラムの作成・検討
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育・合同研修の実施 ・接続期カリキュラムの作成 ・アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を実施し、「幼児期までに育ってほしい１０の姿」を視点として、小学校・保育所の教員からの感想や評価を得られた。 ・理解推進事業の幼小連携の協議に、小学校の幼小連携主任が参加した。 ・アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」あてはまる７８％
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な保幼小連絡会を実施し、計画的な取組の計画や子どもの情報交換を行うことができた。

価	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と小学校との人権研修は実施できたが、保育の合同研修は実施できていない。 ・幼小連携をテーマとした合同研修は実施できていない。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の５歳児の保育計画をもとに、接続期カリキュラムの見直しを作成していく。 ・保育の合同研修を計画・実施していく。
	<u>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</u> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育・研修の実施 ・接続期カリキュラムの作成 ・アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは、幼児期から習慣づけることが大事。

最終評価

<u>中間評価時に設定した各種指標結果</u> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育・研修の実施 ・接続期カリキュラムの作成 ・アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」あてはまる８８％ 	
自己評価	<u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会主催の幼小接続講座に教員が参加し、小学校教員との協議を行い、円滑な接続について認識を深めることができた。 ・公開保育や幼小接続をテーマにした小学校教員との意見交流の機会は持てなかった。来年度に公開保育を設定したい。 ・昨年度作成の接続期カリキュラムを基に、５歳児後半の取組を進めた。・園行事（楽しい集い、節分の集い）に小学校の幼小接続担当教員の参画を図ったり、生活発表会に小学校教員が参観してもらったりすることで、幼少期の子どもの姿の理解に繋がった。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員を対象にした公開保育の実施 ・接続期カリキュラムの改善 ・幼小接続講座や研修会の参加
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・親子お茶会では、子どもたちの聞く力が育っていると感じた。小学校に向けて、成長を感じた。

（３）預かり保育に関して

<u>具体的な取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育と教育課程内の活動の連動と見直し
--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育ならではの特色ある保育の企画・実施 ・ 預かり保育の役割や運営についての保護者への発信 ・ 預かり保育利用の保護者への見通しと安心・安全な運営 ・ イベントボランティアとしての保護者の参画
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数 ・ 預かり保育の活動や指導計画の見直し状況 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数は、4月～6月は昨年より減少しているが、3歳児が参加した7月からはほぼ昨年並みの参加が見られる。 ・ 預かり保育研修会に参加し学んだことを参考にして、知育玩具や物品の環境整備や活動の見直しを図っている。 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」 あてはまる92%
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の安全な運営を目指しているが、参加について取り消し・追加が多くなっている。 ・ 預かり保育の充実に向けた環境整備を図っている。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加状況の確実な把握に向けて、保護者の協力を図る。 ・ 10月からの幼児教育無償化に伴い、預かり保育料の確実な把握・徴収を行う。 ・ 預かり保育の充実に向けた環境整備・保育の充実を図る。 <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加者の確実な把握 ・ 預かり保育の適切な運営 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加者の確実な把握 ・ 預かり保育の適切な運営 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」 あてはまる85%
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定表に園行事・PTA行事や主な取組を記入し、保護者が預かり保育を利用する目安にすることで、参加者の確実な把握に繋げることができた。 ・ 預かり保育の子どもの参加の追加や取り消しについて、確実な連絡を保護者に呼び掛けた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参加数が多いときの安全対策を図る。 ・預かり保育の実施について、地域にまだ浸透していない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加者が多いときの指導者教員の増加 ・預かり保育実施についての地域住民に対する広報
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育を実施していることを子育て世代の方が知ることにより、入園に繋がる。

（４）子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・めだか・うさぎ組の遊びや取組を通して、子ども同士や親同士の交流を図る ・未就園児の保護者の教育相談を推進する ・幼稚園説明会において、京都市立幼稚園の教育活動の理解を図り、竹田幼稚園への入園に繋げる ・「ぐんぐんひろば」（地域子育て支援ステーション補助対象事業）に参加し、豊かな体験などを通して、子どもの健全育成や子育て支援を図る
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数 ・幼稚園説明会の参加人数 ・未就園児保護者に対するアンケートの実施

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組について、未就園の取組は例年通りの回数や参加人数が得られている。 ・竹田学区の未就園の親子を対象とした「ぐんぐんひろば」では、約３００名の参加が得られた。 ・幼稚園説明会の参加人数は、昨年より減少している。 ・未就園児保護者に対して、幼稚園説明会で保護者からの質問を受けて、本園の教育内容を伝えた。 ・アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」 当てはまる８２％
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園説明会では、本園の教育内容や活動の理解を図ったが、入園まで結びつくかは未定である。 ・「ぐんぐんひろば」では、竹田学区の多くの未就園の親子の参加が得られた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組について、今後も安全な運営を図っていきたい。 ・１２月の「ぐんぐんひろば」の企画・運営を図り、幼小連携をアピールしていく。 ・アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数 ・アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもが竹田幼稚園にお世話になっていた時、「親子の会話がすくないのではないですか」と、担任の先生から指摘されたことがありました。その時は、ショックでした。その後、ゆっくり話すことや、腰を低くして、目線を合わせて話すように意識したものです。子どもが小さい間は、親も新米です。親御さんが迷いながら、でも、一生懸命子育てされている姿を見ると、頑張れ！！と応援したくなります。
---------	---

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数 ・アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」 あてはまる８３％ 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めだか・うさぎ組の参加者が増え、子どもや保護者同士の交流ができています。 ・めだか・うさぎ組の様子をホームページに掲載し、取組を発信することで、ホームページを見て入園の問い合わせもあった。 ・ぐんぐん広場の取組が定着しつつあり、来年度の取組の充実を図っていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めだか・うさぎ組の取組の充実と発信 ・ぐんぐん広場での公立幼稚園の教育の発信
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働きの今のママ達は忙しくて、少し余裕がないようにも思いますが、いつの時代でも、子育ては大変なものです。そして、不安です。子どもと話すときは、目線を合わせて、ゆっくり話す。子どもの話をよく聞いてあげる。子育て情報は、山のように入ります。子育てに答えはありません。でも、パパ、ママの愛情と親達の一生懸命だけだと思います。私達女性会のばあば達も先輩として、皆様の子育てを見守りたいです。幼稚園の職員の皆さん、本当にありがとうございました。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画に地域教育を位置づけ、見通しを持った教育を行う ・竹田学区団体長会議などで、地域人材の発掘についての情報収集を行う ・もちつきやバザーなどのPTA行事に、地域の方々の協力を求める 	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流についての地域の方々の声 ・アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出ていく活動について、地域の方は好意的に受け止めていただき協力的である。 ・アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」 あてはまる８６％ 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の地域に出ていく教育活動について、計画通り実施することができた。 ・野菜の栽培について、教員だけでは十分な作業・準備時間が確保できず、地域の協力を得られ

価	ていない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培活動について、保護者や地域の農家について協力を求めている。 ・地域の人材発掘を図る。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育への地域の方々の協力・支援 ・アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAからも地域の方々の協力を依頼していく。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育への地域の方々の協力・支援 ・アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域女性会のお世話により親子お茶会を行い、日本の伝統文化に触れることができた。 ・アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」 あたりはまる８５％
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の保育について、地域とのかかわりを探る ・地域の人材発掘とこれまでの取組の見直し
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・親子お茶会では、子どもたちが話をよく聞いていて感心しました。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の意識、業務の効率化、業務の精選・適正化に向けて、自分に応じた具体的方策を実践する。 ・「働き方改革推進園」として時間外勤務の縮減を図り、子どもと向き合う時間を確保する。
<div>具体的な取組</div> <p>○時間を意識した働き方の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議・研修の開始・終了時刻を提示し、守る ・毎週水曜日を「ノー残業デー」とし、各教職員の勤務終了時刻に退室するようにする <p>○業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案を基に、見通しをもった準備や環境整備を進める ・職員会の案件や園行事の実施案など、早期に作成・提示するなど、取組の見通しをもつ ・園行事や保育の準備・後片付けなど、中堅教員が中心となり経験に基づいた短時間で作業や、

<p>教材研究等のアドバイスを行う</p> <p>○業務の精選・適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事や年間取組を見直し，行事と保育との連動を図る ・園内研修の精選・簡素化を図る ・土・日・祝日は電話対応せず，就業日の電話対応について，18時以降は控えていただくように保護者・地域に依頼する <p>○校務支援員の活用</p>	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間は，昨年に比べ減少している。 ・年休取得率は，昨年に比べて増加している。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議・研修の時間短縮を図ることができている。 ・毎週水曜日の「ノー残業デー」は実施できていない。 ・校務支援員の活用により，教員の業務の軽減化を図ることができている。 ・行事の前には，業務のために勤務時間が長時間になる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の「ノー残業デー」を意識し，各教職員の勤務終了時刻に退室するようにする。 ・職員会の案件や園行事の実施案など，早期に作成・提示するなど，取組の見通しをもつ。 ・行事の実施に向けた見通しを持ち，計画的な準備を行う。 ・校務支援員を有効活用し，業務の軽減化を図る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々教職員の方々を見てみると，とても忙しそうで，なかなか声を掛けづらいと思うことがある。教職員の人数を増やすなど，先生方の負担を少しでも減らすことで，より園と保護者との関係がよくなるのではないかと思う。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率 	
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の「ノー残業デー」を意識したが，教員は勤務終了時刻に退室することは難しかった。 ・教職員の長時間勤務時間の短縮を図ることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中は、教職員が計画的に年休取得できる体制を整えるようにした。 ・職員会の案件や園行事の実施案など，早期に作成・提示するようにした。 ・行事の実施に向けて見通しを持った計画をたて，準備を行うことができた。 ・校務支援員を活用し，教員の業務の軽減化を図ることができたが，管理職の長時間勤務時間の短縮には繋がりにくかった。
	<div data-bbox="225 360 564 398" data-label="Section-Header"> <h4>分析を踏まえた取組の改善</h4> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持った計画的な準備や保育 ・中堅教員の経験を若年教員に伝え，保育の準備や後片付けの効率化 ・校務支援員の有効活用
<div data-bbox="164 553 196 790" data-label="Text"> <p>学校関係者評価</p> </div>	<div data-bbox="225 553 622 591" data-label="Section-Header"> <h4>学校関係者による意見・支援策</h4> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「支援」について，通常の保育時間，預かり保育の時間，共に教職員の数が増えることが，先生方の負担軽減にもなり，保育の質の向上につながると思う。